

藤井厚二の眼差し —もうひとつのモダニズム—「聴竹居」

2025.10.25 Sat. 14:00–15:30 開場13:30–

京都・大山崎の山腹に建つ、建築家・藤井厚二（1888-1938）の自邸「聴竹居」^{ちょうちくきょ}（重要文化財）。日本の気候風土に根ざした住宅とはどうあるべきかを追求した藤井の集大成であり、和洋の生活様式を融合した環境共生住宅の原点として、日本を代表するモダニズム建築の一つに数えられています。今回の「館長といっしょ!」では、長年聴竹居の維持・保全活動に貢献されてきた聴竹居倶楽部代表理事の松隈章氏をゲストに迎え、藤井厚二と聴竹居の魅力についてお話をうかがいます。



藤井厚二 聴竹居 1928年 撮影：古川泰造

講師 | 松隈 章 氏（一般社団法人聴竹居倶楽部代表理事）

聞き手 | 林 洋子（当館館長）

会場 | 兵庫県立美術館 KOBELCOミュージアムホール

定員 | 150名 先着順、聴講無料 ※要特別展観覧券

松隈 章（まつくま あきら）

一般社団法人 聴竹居倶楽部 代表理事。株式会社 竹中工務店 設計本部 設計企画部 部長付及び経営企画室サステナビリティ推進部兼務。公益財団法人 竹中大工道具館評議員。一般社団法人 住宅遺産トラスト幹事。1957年生まれ。1980年北海道大学建築工学科卒業後、竹中工務店入社。設計業務の傍ら近代建築の保存活用や数多くの建築展に携わる。主な著書『聴竹居 日本人の理想の住まい』平凡社、『聴竹居 発見と再生の22年』ぴあ関西、『聴竹居実測図集』彰国社。聴竹居の一連の活動に対して2018年度日本建築学会賞業績賞及び日本イコモス賞を受賞。保存・修復・再生に関わった「旧ジェームス邸」が建築学会作品選集とBELCA賞受賞。

お問合せ先 Tel 078-262-1011